



群馬県立土屋文明記念文学館
Gunma Prefectural Museum of Literature
in Commemoration of Bunmei Tsuchiya

私の同郷の善き詩人の

2022
10/8 sat → 12/18 sun



【開館時間】 9:30～17:00(観覧受付は16:30まで)
※12月4日(日)はロビーコンサート開催のため15:00閉館

【休館日】 火曜日

【観覧料】 一般500(400)円、大高生250(200)円

※()内は20名以上の団体割引料金 ※中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※10月28日(金)群馬県民の日は無料

【後援】 朝日新聞前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、上毛新聞社、朝日ぐんま、NHK前橋放送局、群馬テレビ、FM GUNMA、ラジオ高崎

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期・関連行事等が変更となる場合があります。
※ご来館の際は感染症対策にご協力ください。

高橋元吉肖像：萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまちなか前橋文学館提供



HP



Twitter



Instagram

ぐんま県民
カレッジ
連携講座



萩原朔太郎
大全2022

善き同郷の私の詩人

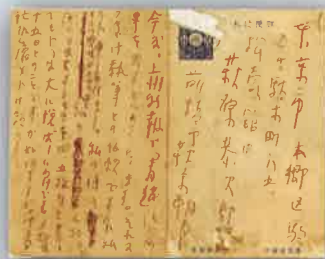
萩原朔太郎と同時代を生きた群馬の五詩人、山村暮鳥、大手拓次、高橋元吉、萩原恭次郎、伊藤信吉。年代の差はあれ、朔太郎と彼らとの間には、詩を巡り、それぞれ深い交流が築かれました。本展では、彼らとの交わりを軸に、詩集『月に吠える』から『氷島』へと至る萩原朔太郎の詩的変遷に迫ります。



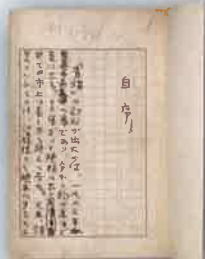
萩原朔太郎『月に吠える』
感情詩社・白社 大正6年2月
山村暮鳥宛の献呈署名入り。



室生犀星原稿『我が愛する詩人の伝記 山村暮鳥の章』
室生犀星記念館蔵



萩原朔太郎原稿 萩原恭次郎宛 大正12年(推定)
全集未収録資料
群馬の日報「上州新報」が詩集『青猫』特集を組むにあたり朔太郎自ら寄稿を依頼している。



詩稿本『定本 青猫』
朔太郎自筆の自序、後書き等を含む『定本 青猫』校正原稿を綴じたもの。

関連行事申込

事前申込が必要なイベントは、当館ホームページ内「イベント申込フォーム」あるいは復信はがきにてお申し込みください。

- ・申込は各イベントごとにお一人様1回限り有効です。
- ・イベントごとに申込が必要です。
- ・申込者(代表者)を含め2名様まで申込できます。
- ・個人情報適切に管理し、各イベントの目的にのみ使用します。

復信はがきの書き方

〈往信表面〉〒370-3533 高崎市保渡田町2000 土屋文明記念文学館・イベント係
 〈往信裏面〉①日付・イベント名 例：11/27(日) 朔太郎と群馬の詩人を歌うⅠ
 ※1つのイベントのみ記入。まとめたの申込はできません。
 ②申込者(代表者)の郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号
 ③申込人数(申込者を含め2名まで)
 〈返信表面〉申込者(代表者)の郵便番号、住所、氏名
 〈返信裏面〉何も記入しない

次回企画展 ▶ 文学者の愛用品展 2023年1月21日(土)~3月21日(火・祝)

交通案内



■ 自家用車

関越自動車道前橋ICから約15分

■ 公共交通機関

高崎駅から

- タクシー：西口から約20分
- バス：群馬バス「しんとう温泉・棟東村役場」行→「保渡田」下車徒歩3分(開館時間帯 平日2本・土日祝日なし)

前橋駅から

- タクシー：北口から約25分
- バス：関越交通バス「土屋文明文学館」行→終点「土屋文明文学館」下車(平日・土日祝日も2時間に1本程度)

※バスの時刻については、バス会社または当館までお問い合わせください。

●群馬バス高崎駅前案内所 TEL.027-323-1533 ●関越交通前橋営業所 TEL.027-210-5566



群馬県立土屋文明記念文学館

Gunma Prefectural Museum of Literature in Commemoration of Bunmei Tsuchiya

〒370-3533 群馬県高崎市保渡田町2000 上毛野はにわの里公園内 TEL.027-373-7721 FAX.027-373-7725

2階カフェ・レストラン BROWN WORKS COFFEE & Cafe 群馬町店 火曜・水曜定休 TEL.027-335-6530

記念講演会 無料・要事前申込・先着順 定員各100名



Ⅰ「萩原朔太郎『郷土望景詩』について―「才川町」を中心として―」

10月30日(日) 14:00~15:30

講師：野呂芳信(のろよしひさ) (東洋大学文学部教授)

1960年生。萩原朔太郎を主な研究対象とし、明治期新体詩、加藤介春、高村光太郎などについて論考がある。文学者の宗教観について関心があり、近年は山村暮鳥の詩集『三人の処女』『聖三稜玻璃』についても考察を進めている。



Ⅱ「詩とともに生きる」

11月3日(木・祝) 14:00~15:30

講師：松下育男(まつしたいくお) (詩人)

1950年福岡県生。詩集に『肴』(紫陽社)、『現代詩文庫 松下育男詩集』(思潮社)、『コーヒーに砂糖は入れない』(思潮社)他。講義録『これから詩を読み、書くひとのための詩の教室』(思潮社)。



Ⅲ「上州から始まる詩の魅力」

11月13日(日) 14:00~15:30

講師：蜂崎耳(はちかみみ) (詩人、立教大学文学部教授)

1974年神奈川県生。詩集に『いまにももうおっいていく陣地』(中原中也賞)、『食うものは食われる夜』(芸術選奨新人賞)、『顔をあらう水』(鮎川信夫賞)など。文集に『空席日誌』『おいしい草』などがある。

朔太郎と群馬の詩人を歌う



Ⅰ 11月27日(日) 14:00~14:40 定員100名 無料・要事前申込・先着順

文士の作品に曲をつけて歌う「文学とフォーク」

朔太郎・恭次郎作品と現代フォークの邂逅をお楽しみください。

出演：世田谷ピンポンズ

吉田拓郎や70年代フォーク・歌謡曲のエッセンスを取り入れながらも、ノスタルジーで終わることなく「いま」を歌う。音楽のみならず、文学や古本屋、喫茶店にも造詣が深く、文筆活動も積極的に行う。



Ⅱ 12月4日(日) 15:30~17:00 定員70名 無料・要事前申込・先着順

朔太郎をめぐる「ミュージック・ミュージアム」

朔太郎・拓次・恭次郎・達治の歌曲、合唱曲による「生き物語」をお届けします。

出演：西田直嗣(指揮)・佐藤貴子(Sop.)・宮下紗衣(Sop.)

清水健太郎(Bar.)・澤田まゆみ(Piano)・淡川ナタリ(Piano)

西田直嗣

東京藝術大学を首席で卒業。同大学大学院修了。日本音楽コンクール等受賞多数。奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門一般の部第一位。現在、群馬大学共同教育学部教授。オペラ「四谷怪談」を作曲中。

高校生によるマンドリンコンサート

10月16日(日) 14:00~15:00 定員100名 無料・要事前申込・先着順

出演：県立高崎高校 & 県立高崎女子高校マンドリン部

展示解説 要観覧料・申込不要

10月8日(土)、11月20日(日)、12月10日(土) 各日14:00~14:30